

フィッシング対策協議会

月次報告書（2005年12月分）

APWG Phishing Activity Trends Report (October 2005)
日本語版

2006年1月20日

目次

1.	APWG PHISHING ACTIVITY TRENDS REPORT 2005 年 10 月 日本語版.....	2
1.1.	【HIGHLIGHTS】ハイライト.....	3
1.2.	【TOP USED PORTS HOSTING PHISHING DATA COLLECTION SERVERS】 フィッシングしたデータの集積サーバのホストとして最も使用されたポート	4
1.3.	【BRANDS AND LEGITIMATE ENTITIES HIJACKED BY EMAIL PHISHING ATTACKS】E メール・フィッシング攻撃によってハイジャックされた商標および合法的法人 組織、 報告された商標数	5
1.4.	【MOST TARGETED INDUSTRY SECTORS】最も標的となった産業分野.....	6
1.5.	【WEB PHISHING ATTACK TRENDS】ウェブに対するフィッシング攻撃事情 フィッ シング・サイトのホストとなった国	7

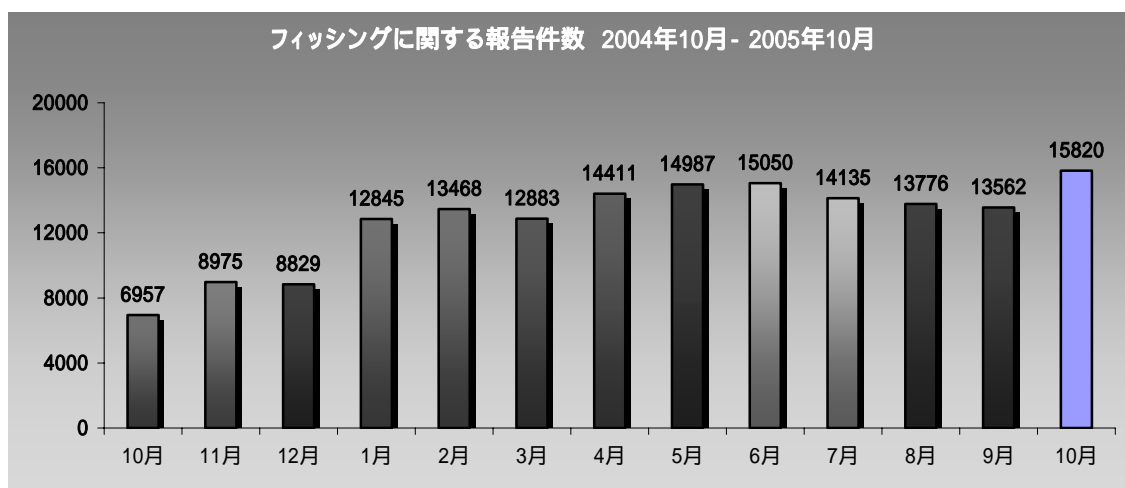
1. APWG Phishing Activity Trends Report 2005年10月 日本語版

『フィッシング(phishing)』とはオンライン上での個人情報の窃盗行為のことを指し、巧詐 e メールを用いて、その受信者を詐欺目的の偽装ウェブサイトへ誘い出し、被害者のクレジットカード番号や口座のユーザーネーム・パスワード、社会保障番号等を巧みに暴き出すものです。社会的信用が確立している大手の銀行やオンライン小売業者、クレジットカード会社の商標をハイジャックすることにより、フィッシング犯は被害者を信用させ個人情報を盗み出すことに成功しています。このような詐欺行為によりクレジットカードが詐欺被害に遭ったり個人情報が盗み取られる等して経済的損失を被る被害が消費者の間で増加しています。

『フィッシング行為最新事情レポート』では、フィッシング対策実務者グループ (A P W G) がそのウェブサイト <http://www.antiphishing.org> 上あるいはグループ宛での e メール reportphishing@antiphishing.org で報告を受けたフィッシング攻撃の事例を分析します。A P W G が保有するフィッシング攻撃の事例に関する情報データベースは、eメール詐欺およびフィッシング行為についての最も包括的なインターネット・アーカイブです。

1.1. 【Highlights】ハイライト

・10月期のフィッシングに関する報告件数	15,820
・10月月に報告されたフィッシング・サイト数	4,367
・10月中にフィッシングによりハイジャックされた商標数	96
・10月中にフィッシング行為を受けた上位80%に属する商標数	6
・10月期最も多くのフィッシング・ウェブサイトのホストとなった国	米国
・標的となりうる名称がなんらかの形で含まれているURL	56%
・IPアドレスのみでホストネームなし	32%
・ポート80を使用しないサイトの割合	5%
・サイトのオンライン上の平均残存期間	5.5日間
・サイトの最長オンライン残存期間	31日間



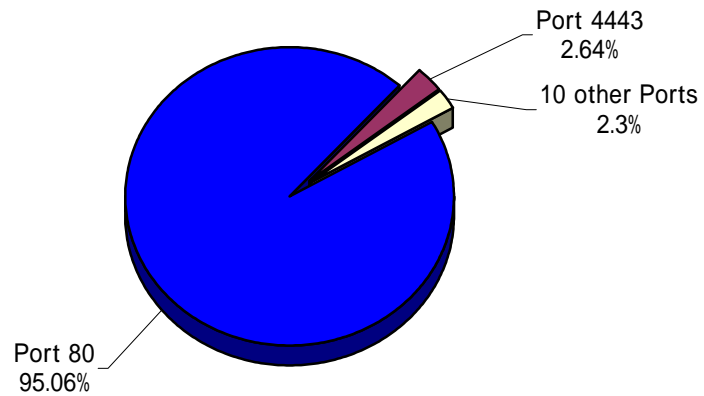
フィッシング行為報告件数(月単位 / 2004年10月 ~ 2005年10月)

『フィッシング行為最新事情レポート』(The Phishing Attack Trends Report)は、顕著な問題となりつつあるフィッシングあるいはeメール詐欺(スプーフィング)に起因する個人情報の盗難および詐欺行為の撲滅を目指す産業界連合団体「フィッシング対策実務者グループ」(Anti-Phishing Working Group)が月例発行しています。詳細はロニー・マニング manning@websense.com (電話 858-320-9274)、または APWG 事務局長ピーター・キャッシュディ(電話 617-669-1123)までお問い合わせください。『フィッシング行為最新事情レポート』(The Phishing Attack Trends Report)の分析研究は、次の企業からの提供によるものです。

1.2. 【 Top Used Ports Hosting Phishing Data Collection Servers 】

フィッシングしたデータの集積サーバのホストとして最も使用されたポート

10月期はHTTPポート80が最も頻繁に使用されるポートとなる傾向が続き、報告された全フィッシング用サイトの95.09%に上りました。

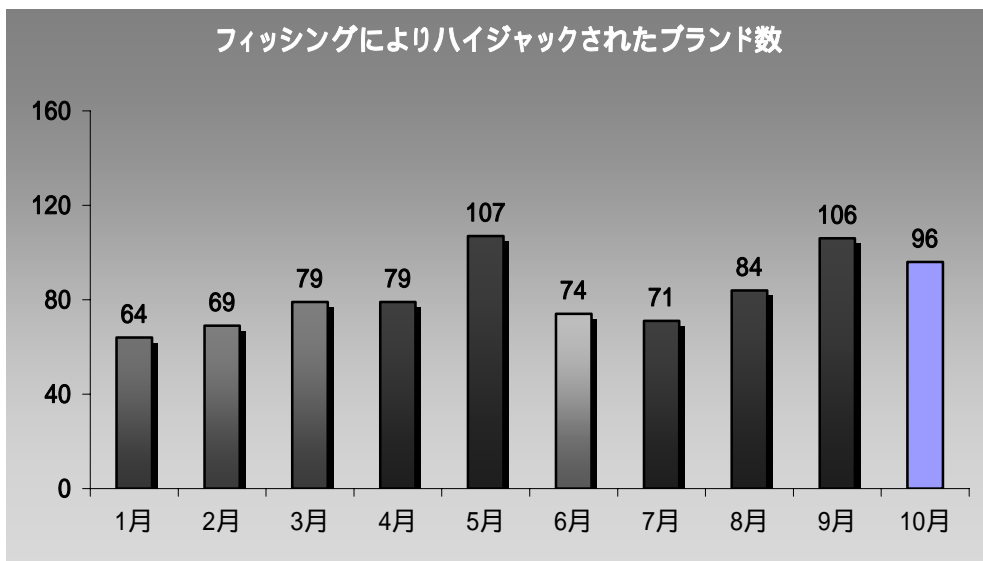


フィッシング・サイトとして最も使用された HTTP ポート

1.3. 【Brands ando Legitimate Entities Hijacked By Email Phishing Attacks】

e メール・フィッシング攻撃によってハイジャックされた商標および合法的法人組織、報告された商標数

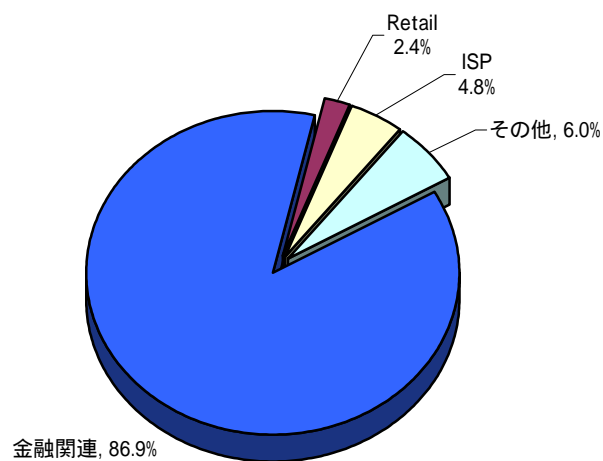
10月期にフィッシング被害を被った商標の報告件数は9月期の106件から96件に減少しました。しかしながら、これは依然として過去12ヵ月の平均報告件数を上回るものでした。



ハイジャック商標数 (2005年1月～10月)

1.4. 【Most Targeted Industry Sectors】最も標的となった産業分野

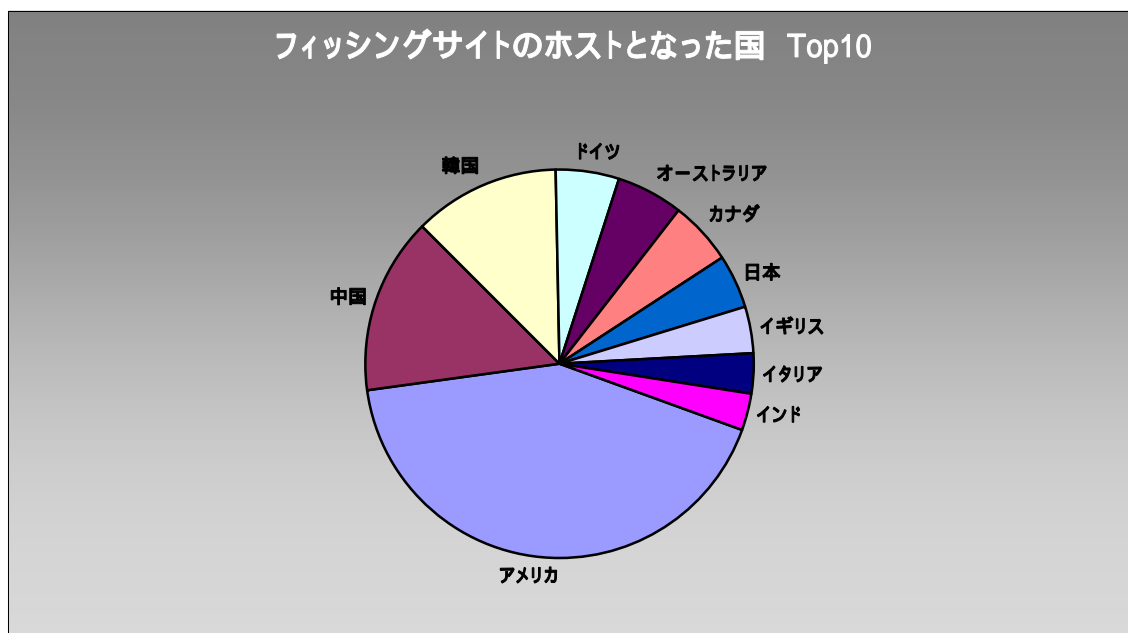
金融サービス分野が引き続き最も標的となった産業分野であり、全攻撃の 86.9% に増加しました。



最も標的となった産業分野

1.5. 【Web Phishing Attack Trends】ウェブに対するフィッシング攻撃事情 フィッシング・サイトのホストとなった国

10月期 Websense Security Labs は、トップ3のフィッシング用サイトのホスト国に変動がないことを確認しました。アメリカは28.75%でリストのトップに留まっています。トップ10のその他は、中国9.96%、韓国8.4%、ドイツ3.7%、オーストラリア3.65%、カナダ3.6%、日本3%、イギリス2.75%、イタリア2.22%、インド2.1%でした。



フィッシング・サイトのホスト国

プロジェクト: クライムウェア

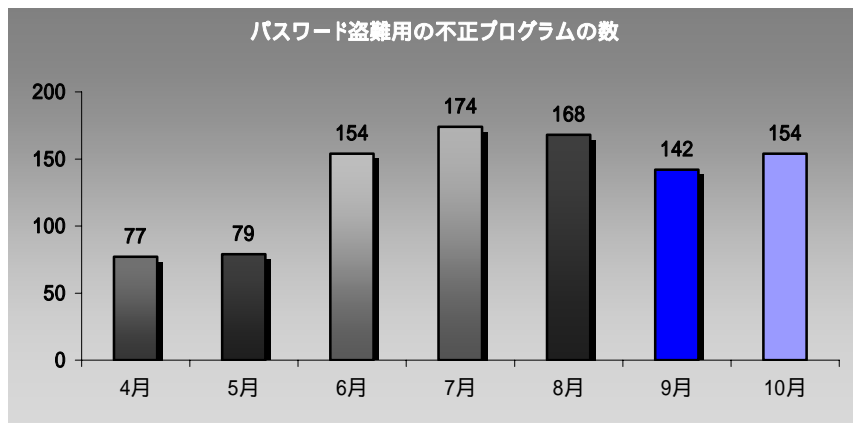
「クライムウェア」分類詳細

「プロジェクト: クライムウェア」では、クライムウェアによる攻撃を以下のように分類しますが、今後新たな攻撃手法が出現してきた場合使用する用語を追加していきます。

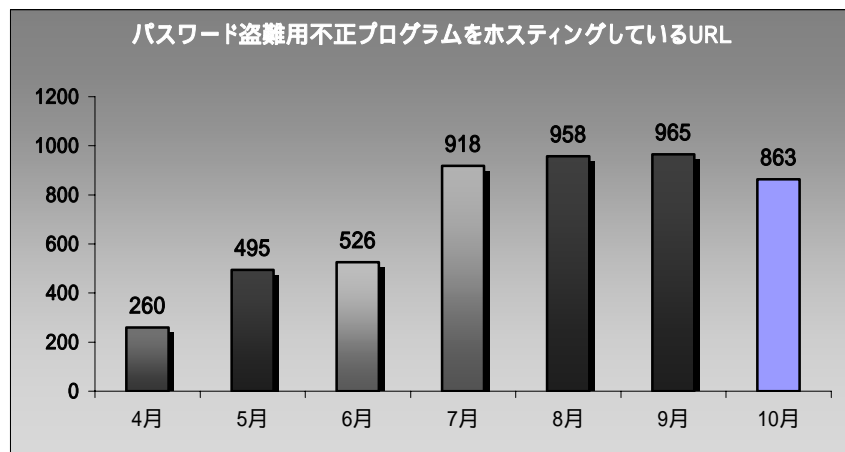
「フィッシング用トロイの木馬 - キーロガー」

10月期 Websense Security Labs では、キーロガーの変種の出現件数は増加しましたが、パスワード盗難用の不正コードを使用したURLの顕著な減少を確認しました。

フィッシング用トロイの木馬 - キーロガー (特定変種)



フィッシング用トロイの木馬 - キーロガー (キーロガーのホストとなった特定ウェブサイト)

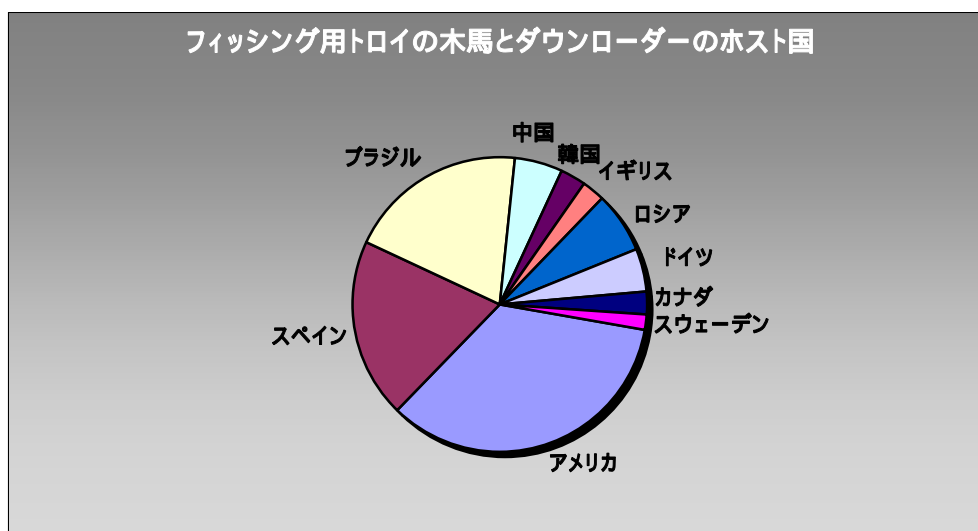


フィッシング用トロイの木馬とダウンローダーのホスト国(IP アドレスによる)

下記のチャートは、フィッシング用キーロガーまたはキーロガーをダウンロードさせるトロイの木馬系ダウンローダーの形態を取る不正コードのホストとして 10 月中に分類されたウェブサイトの内訳を示すものです。

アメリカは依然として地理的所在地のトップで 29.9%を占め、スペインが引き続き増加し 17.08%となりました。

その他の内訳は、ブラジル 16.89%、ロシア 5.82%、中国 4.66%、ドイツ 4.07%、韓国 2.33%、イギリス 2.13%、カナダ 2.13%、スウェーデン 1.55%でした。



Anti-Phishing Working Group について

フィッシング対策実務者グループ (APWG) は、顕著になりつつあるフィッシングや e メール・スプーフィングの問題に起因する個人情報の窃盗および詐欺行為の撲滅対策を中心課題として活動する産業界連合団体です。この連合団体では、フィッシング問題について討議し、ハードおよびソフトのコスト面からフィッシング問題の問題範囲を定義し、問題解決のための情報と最良の実践例を共有するためのフォーラムを提供します。また、適当と判断される場合には、APWG はこれらの情報を司法当局と共有する意思があります。

グループへの加入は、一定条件を満たす金融機関、オンライン小売業者、インターネット・サービス・プロバイダーと司法機関およびソリューション・プロバイダーに公開しています。APWG には 900 近くの企業および政府機関が加入しており、会員数は 1,400 名近くに上ります。フィッシング攻撃および e メール詐欺は、オンライン上でビジネスを行う多くの組織にとって組織の機密にかかわる問題であるため、APWG の方針として会員組織についての情報は公開していません。

フィッシング対策実務者グループのウェブサイトは、<http://www.antiphishing.org> です。公共および産業界のためのフィッシングと e メール詐欺問題に関する情報の供給源としての機能を担っており、これにはフィッシング攻撃に対して即効性があり有用で実用に即した技術的な解決方法の特定と普及促進を含みます。フィッシング攻撃に関する問題分析、法的手段の行使、記録保持作業は現在タンブルウィード・コミュニケーションズ (Tumbleweed Communications) のメッセージ保護研究所により提供されています。

APWG はタンブルウィード・コミュニケーションズおよび数社の会員銀行と金融機関、e コ머스・プロバイダーによって設立されました。2003 年 11 月にサン・フランシスコにおいて最初の会合が開かれ、その後 2004 年 6 月には、グループの運営委員会と理事会および執行委員会により運営が管理される独立法人となりました。